



廖氏藥論

二

ヤ 5  
1034  
2





穆氏藥論標目

卷之二

薯草

諸酸

醇精醋

砒酸

○歌蒲列溶劑	○福烏列爾溶劑
○蒲列刺溶劑	○百亞爾宋溶劑
○歌乙謨溶劑	○格斯默散
○歌爾門度膏	

安息香酸

蓬酸

炭酸

○炭酸水  
○炭酸瓦斯  
○沸騰散

穆氏藥論

標目

精勵堂





枸酸

諸甘酸

蟻酸

青酸

植物性青酸

硫水素酸

- 福弗滿鎮痛液
- 甘消石精
- 甘醋精
- 蟻精
- 蟻療法
- 蟻谷法
- 蟻丁幾兒
- 蟻療法



✳

穆氏藥論卷之二

美濃

江馬修士得 譯  
男聖欽正人 校

薯蓣

引メシルレア、ミルレホリウム  
ドイセンドブラド

主治此花葉及ヒ越幾斯劑ハ輕ク奮起シ鎮痙強

壯。收歛シ飲食消化ヲ扶ク胸内諸器ヲ強壯ニス

故ニ世人此葉ヲ泡劑トシ用ヒテ勞瘵ノ良藥ナ

リト云又胃。膀胱陰部ノ粘膜。張力ヲ失シ分泌機

變錯スル症ニ長ク用ヒテ良効アリ



此葉及ヒ花ハ慢性粘液勞。白帶下。淋病。痰咳ノ終  
 期。直腸粘液漏ニ良劑ナリ又一醫ノ説ニ婦人陰  
 具諸病ニ妙効アリ故二月經痛。月經寡少。崩漏。經  
 閉。顔色灰白觸覺穎敏ナル人ノ虚性子宮脱血ニ  
 良驗アリト云

斯答爾名人及ヒ福弗滿名人ハ痔血過泄及ヒ依剝名昆  
 堉兒名歇名乙斯名的里名ニ飲食不化ヲ兼ル症ニ之ヲ稱  
 用ス

外用浴湯。灌腸劑トシ又惡性潰瘍ニ蒸漏劑トシ  
 良効アリ

服量用法 浸劑ハ花葉俱ニ一日ニ一弓ヲ用フ

新搾汁ハ一日ニ二弓ヨリ三弓ニ至ル

越幾斯劑ハ一刃ヨリ三刃ニ至ルヲ丸劑トス又

二錢ヨリ三錢マデ加密列水。薄荷水。桂水等六弓

ニ溶シ用フ

○刺實名烏斯名ハ小腹諸器ノ分泌機怠慢スル症  
 及ヒ痔血閉止ニ左方ヲ稱用ス

著草 一弓半  
 凝水石 一弓

亞泥子 一錢

右沸湯ニ浸ス一四半時ニ濾過シ每服ニ食匙



ヨリ四食匙ニ至ル日ニ二三

○月經不順ヲ治ス

加密列

默栗薩

薯草 各半ヲ

右沸湯ニ浸出シ一日二用フ

＊○經閉ヲ治ス

薯草越幾斯 三錢

杜松實水

默栗薩水 各四ヲ

蓬砂 半錢

斯必那設爾比奈舍利別 一ヲ

福弗滿鎮痛液 一錢

右調和シ一時半毎ニ二食匙ヲ用ヒ且前ノ浸劑  
ヲ兼用スヘシ

諸酸 アシダシールン

諸酸ヲ分テ三種トス即礦酸植酸活酸是ナリ近  
來含密學漸ク盛ナルニ至テ之ヲ種々ニ區別ス  
ト雖凡然凡醫家ニ於テハ右ノ區別ヲ以テ足レ  
リトス

近來植物ニ酸質ヲ含有スルヲ發明ス即萘啞酸

アシダシールン、  
トロピキム、  
雙鸞菊酸 アシダシールン、  
木鼈子酸 アシダシールン、



イガシニリ 失鳩答酸アシヂム、ム、刺屈去加酸ム、ラシヂム  
ニキムムチニシヂム、ム 是ナリ然此植酸ハ

大抵大毒性ヲ有ス故ニ余ハ内外俱ニ之ヲ用フ  
ルナシ

主治 酸類ノ内植酸毒性ヲ含有セザル者 又ハ鑛酸ハ總テ

腐敗ヲ防ク効アリ故ニ之ヲ防腐酸ト名ク之ヲ

内服スレハ速ニ奮起シ昏冒ヲ治シ煩悶ヲ鎮メ

勞倦ヲ治ス其効ノ神速ナルヲ單ニ消食諸道ヲ

經過ノ血中ニ達スルヲ待ス夫ノ英獨斯没失私

修按膜ヲ隔テ 其作用ヲ扶クル者ト思ハザル  
感通スルノ機

ベカラザルヲ屢之アリ

酸類ハ醋ト其効ヲ同フス能ク渴ヲ消シ粘液分

泌ヲ減却シ沕ウ乙エ及ヒ小便分利ヲ増進ス長ク之

ヲ續用スレハ顔色ヲ灰白ニシ動脈運動ヲ鎮静

シ静脈運動ハ却テ増進ス 食思ヲ減少シ消食機ヲ妨ケ下利

ヲ起シ終ニ壞血病性萎黃病ヲ發ス

消酸鹽酸硫酸等ハ之ヲ服用スル寸ニ口内咽喉

食道胃等ヲ傷爛シ其部ニ焮衝ヲ起シ次テ壞疽

トナリ死スル者アリ

○右傷爛ヲ治スル良方



煨製麻<sup>ハ</sup>屈<sup>ク</sup>涅<sup>ネ</sup>失<sup>シ</sup>垂<sup>チ</sup>一<sup>一</sup>ヲ沸湯<sup>ニ</sup>北

右溶化シ多量ノ粘滑飲劑ニ和シ服ス

酸類

殊ニ鑛酸

ハ諸部ヲ收斂シ

青酸及ヒ炭酸ハ別ナリ此ニ品ハ全ク收斂

ノ効ヲ下スハ非ナリ諸膜ヲ緻密ニシ腸内ノ蛋

白質液ヲ凝結シ唯水様液ノ分泌ヲ増進シ却テ

粘液ノ分泌ヲ増進セス且腸内呼吸泌尿生殖等

ノ諸器ニ於テ粘液ヲ稠厚ニスル性アリ

枸櫞汁<sup>ハ</sup>酸封<sup>ハ</sup>私等ノ諸酸ヲ過用スル寸ハ膀胱及

ヒ尿道粘膜中ノ粘液ヲ凝結セシム是ヲ以テ其

酷厲トナル尿ノ刺衝ヲ防護スルヲ能ハザルガ

故ニ必ス淋瀝ヲ發スルナリ

酸類血中ニ入<sup>リ</sup>テノ作用ヲ論スルハ甚ク緊要ノ

事ナリ近者歇爾<sup>ト</sup>篤<sup>ト</sup>微<sup>ト</sup>屈<sup>ト</sup>名<sup>ト</sup>之<sup>ト</sup>ヲ試驗メ古説ノ謬

誤ヲ辨正スルヲ左ノ如シ

酸類血中ニ入<sup>リ</sup>テ補給液ヲ増加セス長ク之ヲ續

用スレハ却テ之ヲ稀釋シ<sup>ウ</sup>洩<sup>イ</sup>乙<sup>イ</sup>ノ如クニス

酸類ハ血ヲ鮮紅ニスルヲナク且血中ニ酸素ヲ

輸入スルヲナシ

酸類血中ニ入<sup>リ</sup>テ一時其補給液ヲ凝結シ易クス

是ニ由テ血脈動機旺盛ノ症ニ用ヒテ血液鬱積



ヲ鎮靜ス。又病性肥滿。諸失血ヲ治シ。又液質變性ヲ防治ス。總テ酸類ノ効ハ諸液中ノ活力ニ直達シ。血管神經ニハ唯介達スルノミ。酸類ヲ稱用スル所ノ病左ノ如シ。

第一腐敗熱。殊ニ其原焮衝熱。或ハ焮衝性神經熱。或ハ腸胃熱ヨリ轉シ來ル症ニ良ナリ。

第二神經性聖京屈熱。ニ焮衝性。或ハ血液沸騰。或ハ腐敗ニ傾キ。或ハ劇ギ譫妄。或ハ諸運營失常。或ハ血液頭腦ニ壓迫シ。或ハ頰盈赤。或ハ皮膚燥熱等ヲ兼發スル症ニ効アリ。

第三發疹熱。ニ血液頭腦ニ壓迫スル症ヲ兼ル者。及ヒ痘瘡灌膿期。ニ疱黯黒トナル者。及ヒ猩紅斑ニ良ナリ。

第四小兒焮衝熱。及ヒ腸胃性神經熱ヲ治ス。然レ此症ニハ格魯林水一弓ヲ沙列布煎若ハ垂爾答煎三弓ニ加ヘ用ヒテ良効アルヲ試驗ス。

又儂麻質熱。ニ皮膚弛緩ヲ兼ル者ヲ治ス。又腸胃熱。ニ汚物ヲ疎滌メ後之ヲ用フ。又壞血病。驚口瘡。病院壞疽。失血液質變性。汎發徽毒。慢性發疹。飲食不化等ニ良効アリ。



○勞瘵ノ溶崩汗ヲ兼ル者ヲ治ス

收斂重的兒ニ錢

含電阿芙蓉液半錢

右調和シ每服二十滴ヨリ三十滴ニ至ル日、二四次大麥水ヲ以テ之ヲ用フ

醇精醋

アセチン、アセチル、アセチル、アセチル

清澄水ノ如ク其香氣竄透奮起ス之ニ三倍ノ水

ヲ和シ尋常ノ醋ニ代用ス醋ノ條ヲ參考スベシ

主治 涅烏滿名ノ説ニ總テ創傷ニ繼發スル昏冒

ニ之ヲ嗅劑トシ良効アリト云此症ニ香竄醋モ

亦良驗アリ外用メ疣及ヒ贅肉ヲ消除ス近來之

ニ水ヲ加ヘ虚性眼焮衝ノ眼水トス沔爾涅屈名

ハ病院壞疽ノ初期ニ之ヲ撒絲ニ蘸シ外敷スル

一日ニ三次ニメ疼痛焮衝速ニ消散スト云

加爾密葛兒名ノハ疣目ニ之ヲ外用メ良効アルヲ

稱ス又總テ芥子泥ヲ施ス前ニ此醋ヲ以テ其部

ヲ濕シ而メ之ヲ貼スレバ其効益々捷速ナリ

又阿芙蓉中毒ニ其毒ヲ除去メ後此醋四十滴ヨ

リ五十滴ヲ水一小碗ニ和シ三密扭篤若ハ十五

密扭篤毎二用ヒテ良効アリ



砒酸 アリンヂウムアルセニウム

主治 劇ク腐蝕スル毒劑ナリ。往昔ハ唯外用ニ供スルノミ。近今ハ亦内用ニ供ス。少量ニ之ヲ用フ。レバ神經節及ヒ脊髓ヲ刺衝シ。且同化機。吸收機。分泌機ニ殊効ヲ致ス。

外用 顔唇鼻ノ皮表癌ヲ治ス。腺癌ニハ之ヲ用ヒス。 多クハ格斯默散及ヒ歌爾門度膏トシ用フ。

内用 危險ノ神經病。癲癇。舞蹈病。面痛。アソギナペクトリス。頑固ノ間歇熱。幾那ヲ用ヒテ効ナキ症。 癌瘡。侵蝕癬。

癩病。經久瘰癧。微毒性液質變性ヲ治ス。但大謹慎ヲ以テ之ヲ用ヒス。ンバアルベカラス。中毒ニ由テ屢々萎黃病。惡心。飲食不化。疝痛。下利。裏急後重。皮膚乾燥。赭色トナリ。煩悶。胸痛。麻痺。脚ニ發スル者最多シ。 羸瘦。水腫等ノ危險症ヲ發スル。アレバナリ。ベルリン地名ノ醫及ヒ歌乙謨人名ノ法ニ從ヒ。間歇熱ニ砒酸ヲ畏忌ナク用フル者アリ。是ニ由テ萎黃病ヲ發スル。多シ。

三日熱ニ幾那若ハ規尼涅ニ子ニ黑列僕利尼傑爾ニヲ加ヘ用ヒテ効ナキ症ニ良驗アリ。總テ之ヲ用フ。



ルノ際若シ飲食不化ノ徴ヲ現ハス寸ハ速ニ之ヲ休止スベシ且長ク之ヲ用ヒント欲セハ六週或ハ八週毎ニ一二週間休止スルヲ宜トス。但虚弱ノ人婦人小兒老人ニハ妄ニ之ヲ内用スルハ勿レ

服量用法 每服三十分ハノ一ヨリ十六分ハノ一十二分ハノ一二至ル日、ニ二三回溶劑ヲ最良トス

○歌蒲列名人溶劑

白砒 一ハ

蒸餾水 一ハ

右溶化シ初ハ每服半食匙次テ一食匙ニ至ル乳汁ヲ以テ服ス觸覺穎敏ノ人ハ阿芙蓉液五滴ヨリ十滴マテヲ加用ス

○福烏列爾名人溶劑

砒酸 一ハ

酒石鹽 各六十四ハ

蒸餾水 八マ

右硝子燻ニ入レ重湯ニ上セ砒酸溶化スルニ至リ濾過メ七マヲ取り冷定メ後刺賢堊兒精半マ蒸餾水八マヲ加ヘ每服五滴ヨリ十滴二十滴ニ至ル日、ニ二次



○蒲列刺名入溶劑ハ砒酸刺篤亞斯ヲ以テ製ス其性稍緩ナリ漸ク服量ヲ増メ二十五滴三十滴ニ至ル

○百亞爾宋名入溶劑

砒酸曹達一入 蒸餾水 一弓

右溶化シ初ハ一日ニ一刃漸ク増メ半錢ヨリ一錢ニ至ル其性尚緩ニメ其効福烏列爾溶劑ニ勝レリ此劑一刃中ニ砒酸曹達二十四分ハノ一ヲ含有ス

○歇乙謨名入溶劑 間歇熱ヲ治ス

白砒末 精製酒石鹽 各一錢

蒸餾水 六弓

右砂火ニ上セ砒酸溶化スルニ至テ火ヲ下シ冷定メ後複方白芷精一弓蒸餾水適宜ニ加ヘ總量十二弓トナルヲ度トス熱ノ間時二一時毎二五滴ヨリ十滴十五滴ニ至ル用フルニ臨ンテ能ク振蕩スベシ

○格斯默名入散劑 皮表癌ヲ治ス

白砒 二刃 陳履燒灰 八分

血竭 銀朱 各二錢



右研和メ極末トシ先瘡ヲ淨刷シ而メ此散ニ水ヲ加ヘ煉リ軟膏ノ稠トシ筆ヲ以テ之ヲ瘡上ニ一二分ノ厚サニ塗りハ分時若ハ四分時ヲ經レハ劇痛腫起シ而メ痂ヲ結フ其時實厄斯室扶謨膏ヲ貼シ縛定ス一週若ハ三週ヲ經レバ其痂自ラ脱落ス

○歇爾門度名軟膏 唇鼻眼瞼ノ癌ヲ治ス

白砒十八 陳履燒灰

血竭各四 銀朱半錢

右研和シ極末トス此散ニハ左ノ軟膏一錢ニ

和シ撒絲ニ塗り瘡上ニ貼シ瘡圍二分許ヲ覆フベシ

○軟膏方

拔爾撒謨字露 失鳩答越幾斯各一錢

鉛糖一刃 舍電阿芙蓉液半刃

越沒里膏一刃

右研和ス

歇蒲列名斯沕實名亞烏爾名ハ白砒二胡蘿蔔汁。鉛糖。阿芙蓉。失鳩答ヲ研和シ罨劑トシ癌ニ稱用セリ



白砒ノ中毒諸症ニハ「リキ」アルオセイヂム、ヘル  
 ーリ、ヘーダラチム製法硫水素酸ヲ用ヒテ良効アリ  
 ノ條ニ出ス  
 リ砒酸剥篤亜斯ボットアス砒酸曹達等ノ中毒ニハ醋酸鐵  
 液ヲ良劑トス

＊

安息香酸

アシヂム、ベンソイキム

主治 往昔ハ遲鈍性ノ經閉及ヒ經閉ヨリ起ル諸  
 病。脱液病。萎黃病。歇ハイス乙私テリ的里等ニ稱用ス然レ近  
 今ハ右ノ諸症ニ諸鐵劑ヲ勝レリトメ之ヲ用ヒ  
 ス多クハ粘液性喘息慢性肺聖京屈シキョク。啞嗽ヲ兼發

スル症ニ用ヒテ良効アリトス。余之ヲ單味試用  
 スルニ啻ニ祛痰ノ効アルノミナラス亦鎮靜催  
 睡ノ効アルヲ殆ト阿芙蓉ノ如シ。然レ阿芙蓉ノ  
 如ク後患ヲ貽スナシ  
 往昔乾法ヲ以テ製スル所ノ安息香華ト近今ノ  
 安息香酸ト分別セスンバアルベカラス其内余  
 ハ華ヲ勝レリトス酸ハ炎ユム百列ハク烏麻ウマ修按總テ蒸  
含有スル焦ヲ含有セザルガ故ニ其効少キヲ以  
臭味ヲ云テナリ

服量用法 散劑トシ毎服四分ヨリ十二分ニ至ル



砂糖亞刺比亞越護ヲ加ヘ日ニ三次ヨリ六次又  
密屈斯劑或ハ紙劑トシ用フルモ亦宜シ。錠及ヒ  
丸劑ハ宜シカラス

○虛性肺嗽衝ヲ治ス

金硫黃 三錢

吐根末 六錢

安息香華 二十四錢

砂糖 一錢

右研和シ散トシ六個ニ分チ蠟紙ニ包ミ貯ヘ每  
服一包日ニ四次燕麥煎ヲ以テ用フ

○舜堙林名人肺癰ニ左方ヲ稱用ス

安息香酸 半錢

羯布羅

金硫黃 各六錢

茴香油糖 一錢

右研和シ散トシ六個ニ分チ蠟紙ニ包ミ貯ヘ每  
服一包半時若ハ一時每ニ燕麥煎ヲ以テ服ス

○雙連度名人ハ肺癰ニ左方ヲ稱用ス

安息香華 半錢

亞刺比亞越護 一錢

扁桃舍利別 二錢

右調和シ每服一食匙半時若ハ一時每ニ用フ

○慢性肺管聖京屈ヲ治ス 摸爾製拔爾撒

鼠婦末 十錢

越護安沒尼亞幾末 九錢

雜腹蘭末

拔爾撒謨字露末 各一錢



安息香華 六錢

右研和シ拔爾撒謨卒爾布里斯亞尼撒去謨ヲ適宜ニ加ヘ三瓜ノ丸トシ每朝夕六丸ヲ服ス

蓬酸 アシヂウム、ボラシキム、ピリウム、アイフルボラクス、シニール

蓬砂溶劑一北ニ硫酸一ヲヲ滴加シテ製スル者ナリ

主治 昏珀爾屈 名ハ惡性熱ニ出血ヲ兼ル者及ヒ痙攣症ニ發熱精神錯亂ヲ兼ル者。癩瘡。顛狂。癩癩ニ稱用ス每服五瓜ヨリ十瓜二十瓜ニ至ル砂糖

＊

ヲ加ヘ用フ

炭酸 アシヂウム、カルボニキウム、コールストフシニール

炭酸ニ流動質ノ者アリ即チ炭酸水 ボク、カルボニカ 是ナリ諸鑛泉ノ成分トナル又瓦斯狀ノ者アリ即チ炭酸瓦斯 ガス、アシヂ、カルボニシ 是ナリ結麗土或ハ大理石等ノ粉末ニ五六倍ノ稀硫酸ヲ注ク寸ハ沸滓メ炭酸瓦斯ヲ發ス又沸騰散 エロボリス、アシヂ 注クモ亦之ヲ發ス又石灰竈或ハ酒窖或ハ深井ニ炭酸瓦斯アリ人之ニ中リテ或ハ卒厥シ或ハ



死スル者多シ之ヲ除去スルニハ其内ニ大氣ヲ  
 迎入シ或ハ沸湯ヲ注漑シ或ハ火氣ヲ輸入シ深  
 井ニハ腐蝕加里ヲ投シテ攪和スベシ俱ニ能ク  
 此危難ヲ防キ得ルナリ  
 炭酸瓦斯ニ中リテ卒厥スル者ハ速ニ風氣清爽  
 ノ處ニ移スベシ大抵醒復スルナリ

主治結核肺勞吐膿肺勞ニ炭酸瓦斯ヲ吸入セシ  
 ムルヲ稱用ス其方結麗土ニ酒石酸ヲ混和スル  
 寸ハ炭酸瓦斯ヲ發ス之ヲ一二密扭篤ノ間吸入  
 スベシ

舜埵林名人ノ經驗說ニ肺氣脹肺ノ收縮力ニ此瓦  
 斯ヲ吸入セシムル法ヲ稱用ス之ヲ吸入スレハ

肺ノ窠質收縮スルヲ以テ一時喘息ヲ發ス然レ  
 次テ大ニ輕快ヲ致ス故ニ之ヲ肺勞ニ用フルニ  
 比スレバ其効大ニ勝レリト云

吐膿肺勞ニ炭酸瓦斯ヲ吸入セシムルニ獸脬硝  
 子壘管等ヲ用フル者アリ然レ便利ナラザルガ  
 故ニ迄今ハ之ヲ用ヒス病室中ノ空氣ニ瓦斯ヲ  
 混合シ之ヲ吸入セシムルヲ宜シトス或ハ牛室  
 上ニ起卧セシメ或ハ田ヲ犁鋤スル後ニ附從シ



土中ヨリ外發スル蒸氣ヲ吸入スル法アリ扶歌  
 蘭度名入曾テ之ヲ稱用シ埵斯傑涅名入モ亦近頃  
 此法ヲ用ヒテ良驗ヲ得タリト云  
 福弗篤名入ノ經驗說ニ吐膿肺勞症其膿夥多ニメ  
 惡臭アル者ハ病室中ノ空氣三分ニ炭酸瓦斯一  
 分ヲ混和シ之ヲ吸入セシムベシ然レ頭腦へ血  
 液迫進シ或ハ肺ニ炊衝狀ノ症ヲ兼發シ或ハ肺  
 ノ動機旺盛スル症ニハ大害ヲナスト云  
 舜埵林名入ノ說ニ瓦斯ヲ製スルニ通常硫酸ヲ用  
 フ然レ硫酸ハ其一分蒸氣トナリ飛散スルガ故

ニ揮發ナラザル酒石酸ヲ用フルヲ勝レリト云  
 又瓦斯浴ノ法アリ即チ頭ヲ除クノ外全身ヲ蒸  
 氣浴桶ニ入レ或ハ症ニ從ヒ管ヲ以テ患部ニ施  
 用スルモ亦可ナリ此法ハ慢性發疹病。皮膚運管  
 常度ヲ失スル者。皮膚動機旺盛スル者。虛性痛風  
 痺麻質名入。痲病。脚汗過多等ノ症ニ稱用ス  
 腐敗熱及ヒ壞血病ニ此瓦斯ヲ灌腸劑トシ良驗  
 アリ又弛緩性汚穢潰瘍。壞疽。癌瘡ニ之ヲ外用メ  
 効アリ且此諸症ニハ他ノ泡釀物ヲ貼スレバ炭  
 酸瓦斯ヲ發メ良効ヲ奏ス即醇ヲ罨劑トシ或ハ



胡蘿蔔ヲ搗爛メ敷貼シ日ニ一二次之ヲ更換ス  
ル等ナリ 胡蘿蔔ノ条ヲ  
參考スベシ

○炭酸水 アルクハ、カルボニカ  
アルトイバルルコール

主治慢性胃病。消食機衰弱。嘈雜。小腹鬱血。黃疸。黑  
物吐下病。痔疾。痛風。腎膀胱結石。依イボト昆クニ埴チ兒ル鬱憂  
病等ニ良効アリ

炭酸水ニ鹽氣ヲ含ミ酸質ヲ多量ニ有スル者ハ  
「クイルジンゲン」キツシ「ゲン」スクワルヘイム  
「リールドサウ」共ニ鑛  
泉名等ナリ。敏性小腹壅塞ニ  
稱用ス

剥ボツ篤ト亞斯アヲ含ム者ハ「セルテルス」ビリン「アルト  
ワツセル」オベルサルスブロン「ゴツピンゲン」共  
鑛泉等ナリ。虚性壅塞。動機旺盛。慢性胃腸粘液漏  
ヲ治シ。瘧性嘔吐ヲ鎮止ス

鐵氣ヲ含ム者ハ「ハシンゲン」ビール「モン」ト「フリ  
ンスベルク」ギース「シュベル」アルト「ワツセル」共ニ  
鑛泉名等ナリ。纖維緩慢。觸覺穎敏。ニノ虚弱ナル人ニ  
稱用ス。又粘液肺勞。結核肺勞。ニ姑息ノ良劑ナリ。  
但シ咯血ニハ之ヲ禁スル。他ノ鐵劑ニ同シ。其  
内「オベルサル」スブロン「ビリン」セル「テルス」ハ「咯



血ニ良効アリ温乳ニ和シ之ヲ用フベシ

○沸騰散 イロニスアエロポリス

○福屈列兒 名方

炭酸刺篤亞斯 二分或三分 酒石酸 一分

砂糖 四分

右研和散トシ毎服ニ刃ヨリ三刃ニ至ル

○勃留私失加局方

炭酸曹達 三分 酒石酸 二分

砂糖 適宜

右研和ス

近今ハ大抵乙方ヲ勝レリトシ甲方ヲ用フル者少シ

般諾歇刺奈局方ニハ炭酸曹達酒石酸各等分トス

主治 依剥昆堙兒歇乙斯的里ヲ治ス沸騰散一ヲ

ニ橙皮油五滴ヨリ六滴 若シセラ加フルト多ク

ク妨ヲ加ヘ用フ又總テ動機旺盛症殊ニ精神病ニ

用ヒテ速ニ之ヲ鎮靜シ又勞力疲倦ノ後ニ用フ

レバ却テ之ヲ奮起スルノ効アリ又歇乙斯的里

ニ煩悶發熱ヲ兼ル症ヲ治ス余平常沸騰散ヲ用



フルニ先一茶匙ヲロニ入レ而ノ水ヲ飲シム如  
此ニメ用フレバ瓦斯飛散セス其効多シ

○涅烏瀦名入沸騰散方

炭酸曹達 十八

酒石酸 四

砂糖 適宜

右研和シ頻服スコレヲ適度ノ量トス若シ胃中  
ニ酸液夥多ナルモノハ酒石酸ヲ去テ之ヲ用フ  
ベシ

航海ノ者常ニ新水ヲ得難キガ故ニ沸騰散ヲ必  
用ノ品トス右藥品各別壘ニ入レ乾處ニ貯ヘ用

フルニ臨ンデ混和スベシ

胃ノ動機旺盛。胃中酸液。悪心ニ良劑ナリ又嘔吐  
ニ用ヒ其原因ヲ除去スルヲ能ハスト雖<sup>カ</sup>速ニ  
之ヲ鎮止ス

○釐爾ルキ及局方沸騰散方

炭酸曹達 一

酒石酸 一

砂糖 一

右文火ヲ以テ乾シ研和ス

結核肺勞ニ於テ結核新ニ萌生シ漸ク脆軟トナ  
ルニ方テ發熱スル者多シ之ヲ鎮静スルニ左ノ



飲料ヲ良トス

利歇里飲一 拘櫟汁ヲ加フル者

菲速布水四 弓 蜂蜜去泡者

右調和シ半時若ハ一時毎ニ一食匙ヲ用フ

右症ニ酒石葉モ亦良効アリ然レ拘酸加里ヲ勝

レリトス酒石葉ハ解凝ノ効強シト雖レ胃弱ノ

者ニ害アリ拘酸加里ハ稍清涼ノ効アルガ故ニ

觸覺穎敏ニノ血脈神經ノ動機旺盛スル者ヲ鎮

静ス

枸酸

アシゲムシトリクム

意太里亚及ヒ齊西里亚國ヨリ硝子礬ニ入レ輸

シ來ル所ノ拘櫟汁ヲ以テ之ヲ製ス然レ此汁甚

タ腐敗シ易ク且硫酸或鹽酸ヲ以テ偽造スル者

多シ故ニ新搾拘櫟汁ヲ以テ製スルヲ勝リトス

枸酸加里。枸酸鹽等ヲ製スルニ於テモ亦然リ

主治 拘櫟汁ニ同シ枸酸ニ代用スベシ新搾拘櫟

汁ニ多量ノ水ト砂糖ヲ加ヘ用フ即尋常ノ里沒

奈埵是ナリ盛夏炎熱ノ時及ヒ諸熱病ニ最良ノ

清涼飲ナリ但荏苒下利ヲ兼ル症ニハ之ヲ用フ



ベカラズ總テ醋ヲ稱用スル所ノ諸症ニ良効アリ醋ノ條ヲ參看スベシ然レ醋ノ如ク揮發ナラザルガ故ニ長ク續用スレバ胃ヲ害ス曾テ無病ノ人枸櫞汁ヲ多量ニ加ヘタル「ボン」スヲ用フル一日ニメ胃ヲ害スル者ヲ見ル

枸酸ヲ單味内用ニ供スル一希ナリ伯的爾斯名人

ハ「ウ」ルムア「フ」チグオイトスラク病ニ枸酸ヲ外

用シ良驗アリト云扶氏醫事日記ニ見ヘタリ

○毛髮脱落ヲ防キ其生長ヲ催進ス

枸酸 半錢 芫菁丁 幾 一錢半

＊

家猪脂 一匁

右研和シ頭ニ塗ル

諸甘酸「ア」ルシ「ダ」ヂ「ル」ヒ「カ」ク

甘酸ハ那布答類ノ總稱ナリ即再銹酸ニ亞爾箇兒ヲ加ヘ蒸餾ノ製ス

其一福弗滿鎮痛液「リ」キ「オ」ル「ア」ノ「デ」ー「ニ」ユ「ス」

亜的兒 一分 亜爾箇兒 三分

右調和ス楚爾及局方ニハ各等分トス

其二甘醋精「ス」ピ「リ」チ「ユ」ス「ア」セ「チ」ヂ「ユ」ル「シ」ズ



亞施印亞的兒一分

亞爾箇兒三分

右調和ス

其三甘海鹽精

スピリチウス、サリス、ジールシス

右製法釐爾及局方ニ見ヘタリ

其四甘消石精スピリチウス、ニトリ、ジールシス

消酸一分

亞爾箇兒四分

右調和ス釐爾及局方ニハ燒酒

三十分度者

消酸二分

トス

主治右諸品ハ奮起ノ効アリ衰弱若ハ失血ニ由ル痙攣諸症。胃瘕。偏頭痛。等ヲ治ス。每服十五滴ヨ

蜂

蟻酸

アシヂウム、ホルミカリウム

リ二十滴三十滴ニ至ル砂糖。茶。水。葡萄酒。等ニ和シ四分時若ハ半時毎ニ用テ効ヲ得ルヲ度トス

林中ニ生スル蟻ハ大ナル者ヲ取り水ヲ加ヘ蒸餾ノ之ヲ製ス其味酸ク其香氣甚ク銳烈ニノ刺衝ス之ヲ皮膚ニ貼スレハ水疱ヲ發ス

○蟻亞的兒アシヂウム、ホルミカリウム

蟻ニ同量ノ亞爾箇兒ヲ加ヘ蒸餾ス

主治蟻酸蟻亞的兒俱ニ今日マデ内服ニ供セシ



トナシ但蟻酸ハ古人ノ蟻精揮發油。脂肪。礬砂。揮發華。蟻酸ヲ含有スヲ稱用スル所ノ諸症ニ内外俱ニ試用メ可ナリ  
即經久痛風關節彊直慢性痲病慢性神經痛等是ナリ

服量 每服半食匙ヨリ一食匙ニ至ル日ニ二次若ハ四次

○蟻精 スピリチウスホルミカリウム

蟻洗淨スル者ニ北ニ亞爾箇兒水各四北ヲ加ヘ蒸餾シ四北ノ精ヲ取り痲病其他諸病ニ於テ患部ヲ洗浴シ且之ヲ塗擦スベシ

○蟻丁幾 チンクチュラホルミカリウム

蟻生活セル者ヲ搗爛シ亞爾箇兒ヲ加ヘ浸出ス其効芫菁丁幾ノ如シ篤烏歇名兒名ノ法ニ從ヒ之ヲ内用ニ供ス

服量 每服五滴ヨリ十滴ニ至ル日ニ三次粘滑飲液ヲ以テ之ヲ用フ

○蟻療法 ミレンキール

往昔痲病ニ稱用セシ所ノ法ナリ然レ近今ヤテ殆ト廢棄ス此項魯西亞ニ於テ斯屈庚名爾名四肢痲痺ニ良驗アルヲ稱ス



其法夥多ノ蟻ヲ取り囊ニ入レ麻痺スル手若ハ  
足ヲ其内ニ入レ囊ロヲ拈閉シ置クニ三日乃  
其刺衝ニ由テ患部ニ劇シキ痒ヲ起シ熱メ燒ク  
ガ如ク且越列幾的兒様ノ激動ヲ發シ全身ニ汗  
出ルヲ度トシ十二時ノ間之ヲ休メ復新ニ蟻ヲ  
取り前法ノ如クニ三日ノ間之ヲ施スベシ

○蟻浴法 ヨル子ウムホルミカリム

慢性痛風關節強直ニ良驗アルヲ稱ス

其法蟻四北ヲ取り搗爛シ布囊ニ入レ沸湯ヲ加  
へ浸出シ列氏驗温器二十八度ヨリ三十度マテ

ノ浴湯ニ注加ス病者之ニ浴メ大汗ヲ發スルニ  
至ルベシ

廿

青酸

アシヂウムヘードロセーアキウム  
アトトルストフブラーウーシヨール

一千七百七十二年ニ謨爾歇亞烏名之ヲ發明シ

一千七百八十二年ニ失計列名初テ之ヲ流動狀

ニ製シ一千八百九年ニ伊篤涅兒名初テ之ヲ死

斯狀ニ製ス

主治 神經系ニ殊効ヲ致シ覺機動機ノ旺盛ヲ鎮

靜ス且甚々捷効アル麻酔劑ナリト雖凡直ニ腦



心ヲ刺衝スルナシ然レハ大害ヲ致ス  
ナリ故ニ余ハ常ニ純精揮發ノ青酸ヲ用ヒス  
苦扁桃水及ヒ老利兒結爾斯水ヲ勝レリトメ多  
ク用フ碩學ノ溼鳥滿名ノ説モ余ト同一ニ青  
酸ハ全ク用フルナシト云

痰咳肺癰恐水病身體強直ニ青酸ヲ試用スルニ  
大抵効ナシ老利兒結爾斯水等ハ胸病及ヒ瘧咳  
ニ良驗ヲ奏ス

舜埜林名ノ説ニ青酸ハ最良法ヲ以テ製スル者  
ト雖凡未タ切實ナラザル製劑ナリ故ニ醫藥ニ

供スベカラスト且近今ノ經驗説ニ小量ノ青酸  
ヲ用ヒテ危險ノ症ヲ起シ或ハ死ヲ致ス者アリ  
ト云故ニ此編ニ唯青酸ノ名ヲ出スノミ青酸ヲ  
含ム植物蒸餾水ノ外ハ之ヲ用ヒス即老利兒結  
爾斯水苦扁桃水是ナリ其効青酸ニ異ナラス其  
製法簡易ニシテ長ク腐敗スルナシ  
扶歇蘭度名ハ青酸ニ代ルニ青酸亜鉛ヲ以テス  
毎服八分ハヨリ四分ハ半ハニ至ル日ニ二三  
軒紉屈名ハ瘧性胃痛小兒瘧生齒若ハ蛔二青  
酸亜鉛ヲ用ヒテ偉効ヲ得ルト云



老利兒結爾斯水ハ痙性心病。老婦血液鬱積等ニ  
良驗アリ一時若ハ一時半每二十滴ヨリ二十滴  
三十滴マテ用フ或ハ症ニ從フテ實答答里斯丁  
幾若ハ收斂亞的兒ヲ配用スルコトアリ

○扶氏感冒越栗失爾流行性感胃ヲ治ス

葛爾儒別涅實屈室越幾斯一錢

蜀羊泉越幾斯半錢 茴香水一コ

老利兒結爾斯水一錢

右調和シ每服六十滴日ニ四次

植物性青酸

アシゲム、ヘイドロセ、アニキム、ヘダ  
タビレ、アラント、アルダグ、ブラ

苦扁桃油一錢ヲ亞爾箇兒蒸餾水各九錢ニ合和

スル者ナリ

主治 青酸ノ如ク揮發ナラス又長ク腐敗セス且

香竄ノ油劑ニメ刺衝ノ性アリ其効青酸ニ勝レ

リトス

服量 每服二滴ヨリ三滴ニ至ル一時若ハ一時半

毎二用フ



硫水素酸 アレンヂウムヘードロチオニキム

流動質ノ者ナリ天造硫黄泉。人為硫黄水。硫化安質酸化。硫肝。金硫黄。結爾蔑斯密涅刺列等ニ此酸ヲ含有ス其臭敗卵ノ如ク其味微甘ニノ刺衝シ且勒佉母斯紙ヲ紅色ニ染ム

主治 多量ニ之ヲ用フレバ血液ヲ溶崩シテ死ヲ

致ス之ニ中ル寸ハ先大煩悶ヲ發シ面色青白微赤トナリ惡心嘔吐昏冒メ死ス

硫水素瓦斯ニ中リテ死スルハ硫水素酸ヨリモ速ナリ然レ肺瘍ノ病者之ヲ少量ニ大氣ト共ニ

吸入スル寸ハ甚タ良驗ヲ奏ス

葛烏斯失爾名ノ經驗說ニ純粹硫水素瓦斯ハ麻

醉毒ヲ有スル力故ニ之ヲ吸入スレバ速ニ卒厥シ或ハ麻痺スト云

此瓦斯ニ中ル者ハ速ニ新氣ヲ吸入セシメ全身

ニ冷水ヲ灌漑シ冷水ニ醋ヲ加ヘ内服セシメ且之ヲ灌腸劑トシ又格魯林水ヲ用フルヲ最良法

トス但幸ニ死ヲ免ルト雖レ必ス諸部ニ麻痺ヲ貽シ速ニ快復シ得サルナリ

流動硫水素酸ヲ適量ニ用ケレハ其効他ノ硫黄



劑ノ如ク緩ニ皮膚及ヒ肺蒸氣ヲ催進シ腸管ノ分泌ハ  
催進スル且悪液轉徙ノ神經ヲ侵ス者ヲ治ス

往昔ハ砒酸ノ中毒ニ硫肝ヲ良劑トス然レ當今  
ハ「オセイヂム、ヘルリ、ヘーダラチム」ヲ勝レリト  
スニ密扭篤若ハ三密扭篤毎ニ一茶匙ヲ温湯ヲ  
以テ飲服ス但「アキオル、オセイヂヘルリ、ヘーダ  
ラチ」ハ長ク腐敗セザルガ故ニ最モ勝レリトス  
其製法左ノ如シ

鹽酸鑊液 四マ

蒸餾水 九十六マ

右調和シ礪砂加石灰精ヲ徐々ニ滴加シ沉淀ス

ルニ至テ之ヲ取り蒸餾水ヲ以テ洗淨シ潤口ノ  
「マート」ガラスニ入レ蒸餾水ヲ徐々ニ滴加シ總  
量十六マトナルヲ度トシ硝子壺ニ入レ固封シ  
貯ヘ用フルニ臨ンテ能ク振蕩スヘシ大人ハ每  
服ニ食匙小兒ハ一食匙八分時若ハ四分時毎ニ  
用ヒ危險ノ諸症全ク退除スルニ至ル

慢性皮膚病、慢性痛風、汞毒萎黃病、天造及ヒ人  
為ノ硫黃泉ニ浴シ且硫黃水「ヨイルセ」子ンド  
「ル」等ノ  
如ク内服スヘシ

○局處急性痛風、急性癩麻質斯ヲ治ス

和漢藥譜 卷之二 三六 精製堂藏



ピキスリキイダ 黄蠟 一錢半

右溶化シ硫磺酸化一錢半ヲ研和シ厚革ニ攤シ患處ニ貼シ大抵八九日ヲ經テ自ラ脱落スルニ至ル而ノ其痛及ヒ皮膚赤色全ク消散セザル寸ハ更ニ之ヲ貼スベシ

余ハ今日マデ人為ノ純粹硫水素酸ヲ藥用ニ供セシメナシ每ニ之ヲ稀薄ニシ天造硫黄水ノ如クニメ用フルナリ

鑛泉浴法條ヲ參看スヘシ

穆氏藥論卷二 終



